

# 彫画師 蔵

草津市内でヘアサロン「結人(ゆいんちゅ)」を営む蔵田潔さんは、理容師とは別にもうひとつの顔がある。2010年10月に「工房彫人(ほりんちゅ)」を設立して、アーティストとしての一歩を踏み出した。その表現に用いる素材が「島ぞうり」。ソール部分の表面を彫ることで、作品をつくりあげていく。

## 沖縄で愛用されてきた独自のビーチサンダル

「島ぞうり」とは、沖縄で昔から愛用されてきたビーチサンダルのこと。戦後、島民の足を瓦礫から守るために生まれたそうで、厚く、滑りにくいよう加工が施してある。厚いのは2層になっているから。色付きのゴムが下にあり、白色のソールが上という構造だ。

履き心地が良いので、沖縄では年中履いている人も多い。そのため他人のぞうりと区別できるよう、線香で白地のソールを焼いて名前を入れたという。これをヒントに生まれたのが、「島ぞうりアート」である。ソール部分をアートナイフ(デザインナイフ)で彫ると、下地のゴムの色が見える。赤や青、オレンジ、紫な

ど南国らしい色がそろう、ソールの白色とのコントラストが鮮やかだ。手彫りだからこそ文字だけでなく、さまざまなイラストも表現可能となる。シーサーやハイビスカスなど、沖縄ならではの絵柄を彫り込んだ、色鮮やかな島ぞうりが土産店に並べられ、オーダーメイドで、オリジナルのデザインを彫る職人が登場するなど、次第に注目を集めていった。

そんな島ぞうりアートと蔵田潔さんとの出会いは、10年ほど前だった。50歳を迎えた時、ふとこの先の人生に行き詰まりを感じた蔵田さん。「自分のことは、自分が一番よく知っている。一旦、そのしがらみから逃れ、自分を見失う旅をして、自分だけでは発想できないものやことに触れたい」と、日本各地へ旅に出た。「初めて訪れた沖縄は、他のどん



※カービング一般には「彫刻」を指すが、近年は果物を美しく彫刻する「フルーツカービング」や、石鹸に彫刻を施す「ソープカービング」などが注目を集めている



拡大して見てみると、さまざまな彫り方を駆使していることがわかる。彫る深さによっても印象が違ってくるといえる。写真の作品では、ラバーボードの白い表面部分に着色するなど、新たな表現も試みている



今年の干支「寅」にちなみ、ラバーボードに彫ったトラの顔。毛並みやヒゲの部分には蔵田さんの卓越した技術が光る

彫画師(カービングアーティスト)蔵こと蔵田潔さん。「一彫り一彫りに思いを込めて作品を制作している」と話す。還暦を迎え、新たな挑戦としてYouTubeチャンネル「3rd Stage」を始めた



④工房彫人オリジナルのラバーボード。黒・藍・橙・碧・紫・赤の6色あり、サイズはA2~A5の4種を用意する  
⑤カービングに必要な道具類。右からアートナイフ、デザイン鉄(はさみ)、ピンセット。鉄やピンセットはナイフで切れ込みを入れたソール部分を引き剥がしたり、整えたりする際に便利だ



下駄の足下につくって布帛を「糸」と布帛を「糸」との組み合わせで「島ぞうり心結(わっしゅい)」



ラバーボードからつくった合格祈願ストラップ。蔵田さん率いるカービングアーティスト集団「蔵一門」でキャラクター造形を得意とする藤田さんの作品で「合格君」



吉祥天の顔の輪郭線が1ミリずれただけで表情が変わってしまうので、指の角度にも違和感がないよう気を遣って彫っている

工房彫人  
公式ホームページ: <https://horinchiu.jimdoofree.com/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/horinchiu>  
彫画師 蔵  
Instagram: @horinchiu  
問い合わせ: horinchiu@yahoo.co.jp

932CREATOR'S VILLAGE  
日時 毎月第2月曜日10時~18時  
会場 アルプラザ草津2階「ヤシの木広場」  
逢れいく展(ブレイク展)  
期間 7月13日(水)~17日(日)  
会場 アイギャラリー(大阪市中央区南船場2-10-17)

蔵一門作品展 ※蔵一門メンバーが在席  
期間 9月19日(祝月)・20日(火)  
会場 草津市笠山1-6-6 ラヴィニア北村2 1階(有限会社結人)

な場所とも違っていました。まさに異国。そこで出会ったのが、島ぞうりでした」

## アートナイフを使って 慎重に彫り込んでいく

「ひと目で魅了された」と、振り返る。経営するヘアサロンの店内をレトロでポップなフイフティーズの雑貨で彩る蔵田さんの感性を、島ぞうりは強く刺激したのだ。早速、沖縄の島ぞうりアーティストに教えを請い、ナイフを手にする。

「彫り方の基本となるのが山彫り、波彫り、平彫りです。漫画家になりたかったくらいで、絵心は多少なりとも持ち合わせていましたし、手先も器用なほう。ですから、習得は割と早かったと思います」

まずはデザイン。彫り出す(描き出す)絵柄を決める。次にトレーシン

グペーパーを使って、図案を白いソール部分に写す。その輪郭に沿ってナイフの刃先を入れていき、ソールを引張って削ぎ切るようにして彫っていく。「彫っていると、ナイフの刃がすぐ切れなくなってしまう。1足あたり20枚から30枚、刃を取り替えますね。細い線を彫るのも残すのも、それなりの技術と慎重な作業が必要です。失敗したら修復はできません。目が疲れてきますし、集中力も長くは続かないので、比較的単純なイラストでも1足を仕上げるのに3日くらい要します」

名前や似顔絵などの島ぞうりを依頼で制作することも多いが、蔵田さんの真骨頂は磨き上げた技術を振るつた和柄にある。風神雷神図、飛翔する吉祥天、鯉の滝登りなど、繊細で美しい作品を目にすれば、「とても履けない」と思わず声がこぼれる。

## 作品世界を広げるため ラバーボードの開発を

表現者として「人を笑顔にする」ような作品を目指していくなか、蔵田さんは島ぞうりという素材に限界を覚え始めた。左右1対のぞうりゆえ、絵柄は二分されてしまう。そこで、四角いキャンバスとなるボードを発売。島ぞうりと同じ2層構造のボード「ラバーボード」を、神戸のメーカーと試行錯誤を重ねて製作した。

広いボードを生かして彫り上げた浮世絵や般若心経は、明らかに島ぞうりアートとは線を画した作品となった。また、ウエルカムボードやアニバーサリープレート、ショップサインなどにも活用でき、多様なオーダーに対応しているそうだ。さらにボードをカットすることで、コース

ターやキーホルダーなどの雑貨制作にも応用できる。

「グラデーションなど、まだまだ表現しきれないものも多く、カービングの手法の開発とスキルアップに今後も努めていきたいと思っています。アートとしての可能性を追求するのと同時に、僕が始めたカービングアートを草津発祥の文化として広めていきたいですね」と、蔵田さんは思いを語る。

2014年に「彫人島ぞうりアートアカデミー」を立ち上げ、これまでに指導した人数は700人を超える。現在もオンライン講座を開いているほか、毎月第2月曜日に、アル・プラザ草津で開催している「932CREATOR'S VILLAGE」に出店して、オーダーや体験を受け付けている。「興味のある人は、ぜひお越しください」と、蔵田さんは呼びかける。



◎蔵一門メンバー。前列右が蔵田潔さん、左が藤田洋子さん。後列右が坂梨光輝さん、左が山本伸男さん。蔵田さんを筆頭に全員カービングアーティストとして活躍中 ◎「932CREATOR'S VILLAGE」には、さまざまな個性を持ったクリエイターが集まり、来場者と交流を深めている